

Japanese Research Association of After School Care

日本学童保育学会 第12回研究大会

第12回日本学童保育学会研究大会実行委員長
中国学園大学 住野 好久

第12回研究大会は、オンラインではなく、対面方式によって開催できるように準備を進めています。久しぶりに皆さまとお会いできること、とても楽しみにしております。

会場である中国学園大学は岡山市の西の端、庭瀬にある、小さな大学です。JR山陽本線で岡山駅から2駅（7分）とアクセスよく、駅界限には庭瀬城趾、撫川城趾と旧庭瀬往来の町並みが残っており、歴史と文化を感じさせます。また、倉敷駅まで2駅（9分）ですから、倉敷観光もできます。ただ、現時点では毎回大いに盛り上がる「懇親会」を開催できそうにないことはとても残念です。

今大会では、学童保育実践・研究の焦眉の課題について議論する課題研究、それぞれの研究成果を発表する自由研究発表とともに、会員の企画で学童保育実践・研究の交流を図る「自主企画」の時間を新たに設けました。

コロナ禍の中、実行委員会も十分開催できず、皆さまをお迎えする準備がしっかりとできるのか、いささか不安ではありますが、皆さまが安全に安心して研究協議に参加できるよう、中田周作事務局長と知恵を出して準備を進めたいと考えております。

皆さまのご参加と研究発表・自主企画を心からお待ちしています。



■日時：2022年6月25日（土）13時30分～

・26日（日）9時30分～

■会場：中国学園大学 子ども学部（12号館）

（〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地）

* 今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、昨年度と同じようなオンライン開催になる場合もあります。その場合は、5月15日頃までに学会HPに掲載します。

■日 程

6月25日(土) [第1日目]

12:00～13:00 理事会 (M-303)

13:00～ 受付

13:30～16:30

課題研究Ⅰ 学童保育と地域社会の関係を問う (M-301)

【趣旨】

1970年代前後、地域に子どもたちの放課後の安全な居場所をつくることを目指して学童保育所の「つくり運動」が全国的に取り組まれ、子育て家族が共同して組織した保護者が運営する共同学童保育所がつくられていった過程は、地域における子育てのあり方を考え、地域の子育て環境の改善・充実を図る過程でもありました。

しかし、今や学童保育所の過半数は学校の敷地内に設置され、保護者にとって学童保育は公共事業として提供されるサービスを受ける(買う)ものとなっています。放課後も学校のフェンスの中で過ごす子どもたちが地域に出て遊ぶことも多くありません。今日の学童保育は地域社会とのつながりを弱め、施設にやってくる子どもたちに施設の中で保育サービスを提供する営みになってきているのではないのでしょうか。「地域との連携」と言っても施設の中の取組に地域の人々の参加と協力を得ることにとどまっているのではないのでしょうか。「放課後児童クラブ運営指針」は児童館や放課後子供教室との連携、「地域での遊びの環境づくりへの支援も視野に入れる」ことを求めています。そうした地域の子ども・子育て支援組織との連携の視点も弱まっているのではないのでしょうか。

そこで、本課題研究では、学童保育は地域社会とどのような関係を構築し、地域社会の中でどのような役割を担っていくことが求められているのか、そのためにどのような実践に取り組む必要があるのかについて考えることを目的として設定されました。

塚田由佳里会員には、大阪市の事例を中心に地域の中で子どもが育つ学童保育実践がどのような地域社会とのつながりの中で実現しているのかを報告していただきます。森賢悟会員には、学童保育を卒所した高学年の居場所づくりに取り組んだ経験から、地域の子育て環境の改善・充実のために学童保育はどのようなことができるのかについて報告していただきます。若井暁会員には、2018年7月の西日本豪雨の際に被災地の子どもたちへの学童保育を提供した経験から、地域社会の危機に対して学童保育ができることは何かについて報告していただきます。最後に宮崎隆志会員から日本学童保育学会設立10周年記念誌『学童保育研究の課題と展望』(2021)に執筆された内容に触れつつ、三人の報告を踏まえて、学童保育と地域社会との関係について論点整理していただきます。

【報告者】(発表題目はいずれも仮題)

- ・塚田由佳里(同志社女子大) 地域のなかで子どもが育つ学童保育
- ・森 賢悟(NPO 京都親子支援センター チャレンジクラブ)
地域の子育て環境の改善・充実と学童保育
- ・若井 暁(NPO 法人くらしき放課後児童クラブ支援センター)
地域の危機と学童保育の役割
- ・宮崎 隆志(北海道大学) 学童保育と地域社会との関係を考える

【司会】住野 好久(中国学園大学)

17:15～18:30 自主企画Ⅰ

6月26日（日） [第2日目]

9:00～ 受付

9:30～12:00 自由研究発表

- ・発表時間は、個人研究（発表20分、討議10分）、共同研究（発表30分、討議15分）です。
- ・発表希望者は、後述する「自由研究発表申し込み方法」をご覧ください。

12:20～13:00 総会（M-201）

13:20～16:00

課題研究Ⅱ 学童保育指導員のチームワークを考える（M-301）

【趣旨】

全国学童保育連絡協議会が行っている「学童保育（放課後児童クラブ）の実施状況調査」によれば、2021年5月1日時点での入所児童数は130万7,699人。2015年の子ども・子育て支援新制度以降、約30万人増加している。1997年の児童福祉法の改正以降の入所児童数の増加は、学童保育に通う子どもたち、そして家庭の多様性をより一層進めている。

そうした多様な生活背景を持つ子どもたちの成長・発達を保障し、保護者の生活・就労を支えていくためには、指導員一人ひとりの専門性が必要であると同時に、指導員が集団として保育にあたること、つまり指導員が個々で力を発揮するだけでなく、組織として力を発揮することが不可欠となってきている。その鍵となるのが、指導員間のチームワークである。

学童保育指導員のチームワークについての研究は始まったばかりであるが、少なくとも2点の課題が指摘されてきた（長瀬美子「指導員のチームワークを考える」日本学童保育士協会編『学童保育研究』17号、2016）。1点目は、指導員の多様性である。学校教員や保育士と比べると、指導員は経験や経歴、学童保育や子育てに関する考え方の幅が広い。つまり子ども観や保育観などに大きな違いがあり、一致点をつくりにくい難しさがある。2点目は、指導員の勤務条件の多様さである。指導員の多くは非常勤やパート、アルバイトで働いており、時差勤務や週数日の勤務が広くみられる働き方となっている。そのためチームワークの形成に不可欠となる会議や打ち合わせといった情報共有や保育についての対話をする時間を創り出すことが難しい状況がある。さらに1つの支援単位における指導員の連携と複数の支援単位を1施設として運営している学童保育では連携のあり方が違うことも現場の指導員から指摘されている。

課題研究では、こうした学童保育指導員のチームワーク関わる課題を踏まえつつ、以下のような点を考えたい。第一に、学童保育実践において求められる指導員のチームワークとはどのようなものなのか、第二に、多様な経験や経歴等を持ち、かつ多様な働き方をしている指導員の間でチームワークを形成するために必要な方法とは、どのようなものなのか、特に主任といったポジションに就いている指導員が果たす役割について、学童保育が置かれている具体的な状況を踏まえつつ、登壇者に提起してもらい、今後、学童保育実践において指導員に求められるチームワークのあり方について議論したい。

【報告者】

- ・長瀬 美子（大阪大谷大学）
- ・小野 智子（岡山県学童保育指導員）
- ・福 武利（大阪府学童保育指導員）

【指定討論者】 鈴木 瞬（金沢大学）

【司会】 二宮衆一（和歌山大学）、吉岡美保（福岡県学童保育指導員）

16:15～17:30 自主企画Ⅱ

■ 大会参加費

- 大会参加費(2日間)会員3,000円 非会員4,000円 学生はそれぞれの半額。
(1日のみ)会員2,000円 非会員3,000円 学生はそれぞれの半額。
- 参加費は、当日お支払いいただきます。おつりのないようご準備ください。
- オンライン開催の場合の参加費納入方法は、オンライン開催のご案内時に連絡します。

■ 大会参加申し込み（締め切り6月24日）

- 大会に参加される方は、大会前日の6月24日(金)までに必ず事前に参加申し込みをして下さい。
- 参加申し込みは右のQRコードで「参加申込フォーム」にアクセスして、必要事項をご記入下さい。
<https://forms.gle/71WFsuXHZRiNq9aX8> (学会HPからもできます。)



■ 自由研究発表申し込み方法（締め切り4月22日）

- 自由研究発表者は、日本学童保育学会会員（入会申請中も可）であることが要件です。現在会員でない方で自由研究発表を希望する場合は、発表申し込みと同時に、学会入会申し込みをして下さい。学会入会申し込みについては、日本学童保育学会事務局にお問い合わせください。入会案内・規約・申込書等は学会HPでも入手できます。
- 発表希望者は、4月22日(金)までに以下の「発表申込フォーム」よりお申し込み下さい。
<https://forms.gle/pTQKGYiX5T7qZkCz5> (学会HPからリンクしています。)

■ 『発表要旨集』の提出について（締め切り5月28日）

- 自由研究発表者は、『発表要旨集』に掲載する原稿を作成し、5月28日(土) (必着)までに大会実行委員会宛にご送付下さい。
- 以下より、執筆要領をダウンロードし、その様式に従って作成して下さい。
<https://goo.su/ozxi> (学会HPからリンクしています。)
- ワープロソフトで作成したファイルはPDFファイルに変換し、ワープロの文書ファイルとPDFファイルの二つのファイルを、大会実行委員会事務局へ、Eメールに添付してご提出ください。その際、Eメールの件名を以下のようにして下さい。
日本学童保育学会第12回研究大会発表要旨原稿：氏名
- 提出いただいた原稿は、そのまま発表要旨集に印刷させていただきます。
- 締め切りまでに提出されない場合は、掲載いたしませんので、ご了承下さい。

■ 「自主企画」について（申し込み締め切り4月22日）

- 研究大会の新しい試みとして、会員の企画によって学童保育研究・実践について交流する時間を設定します。登壇者は非会員も可としますが、大会参加費を支払うものとします。
- 企画希望者は、4月22日(金)までに以下の「自主企画申込フォーム」よりお申し込み下さい。
<https://forms.gle/YBCjhjtY21QaV3556> (学会HPからリンクしています。)

■会場までのアクセス

<JR岡山駅まで>

(飛行機)

- 飛行機は、現在、東京（羽田）からと沖縄（那覇）からのみ運行されています。
- 岡山空港からは、リムジンバスで岡山駅西口まで約30分、780円です。

(JR)

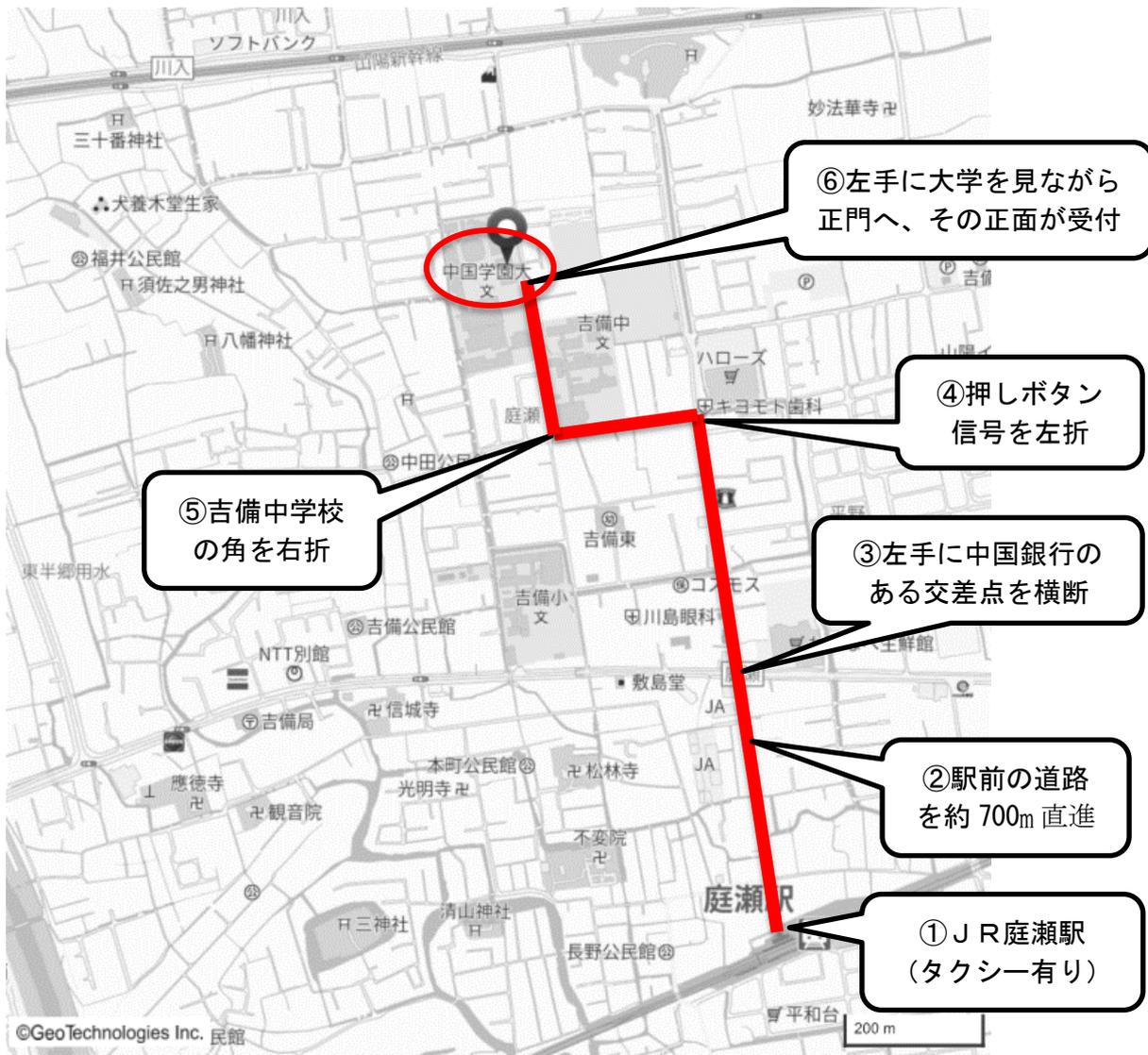
- 新幹線で、東京から約200分、名古屋・博多から約100分、新大阪から約45分です。

<JR庭瀬駅まで>

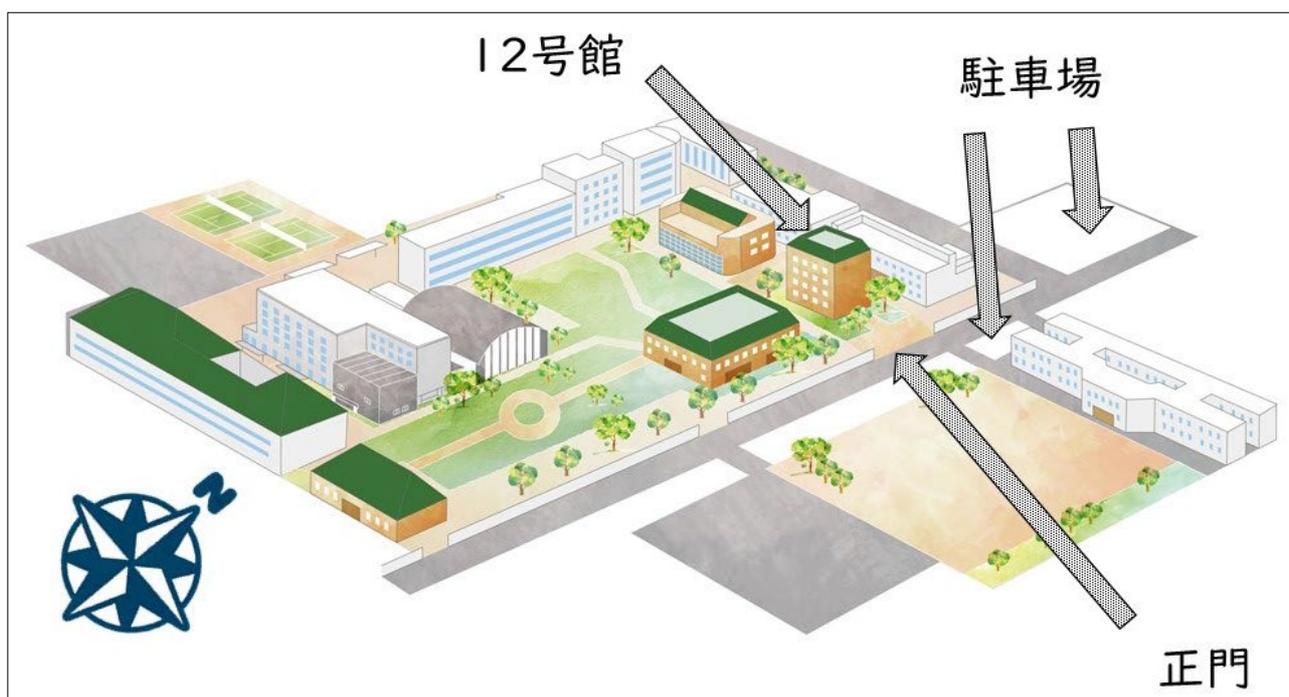
- JR岡山駅の1・2番ホームから出発する山陽本線（倉敷、福山、糸崎、三原方面行き）、伯備線（備中高梁、新見方面行き）で2駅、7分、200円です。
- JR倉敷駅の3番ホームから出発する山陽本線（岡山、相生、瀬戸方面行き）で2駅、9分、200円です。

<中国学園大学まで>

- 下図のルートでゆっくり歩いて約15分（約1キロ）
- 庭瀬駅からタクシーも利用できます。



■ 駐車場について



- 駐車場は、正門の前とキャンパス北側の2か所ありますので、ご利用下さい（無料）。
- キャンパス北側の駐車場の民家に面している場所は、前向きで駐車してください。

■ 周辺宿泊施設について

- 大会会場の最寄駅である庭瀬駅周辺には宿泊施設はありません。
- 岡山駅周辺、あるいは倉敷駅周辺の宿泊施設をご利用下さい。

■ 昼食について

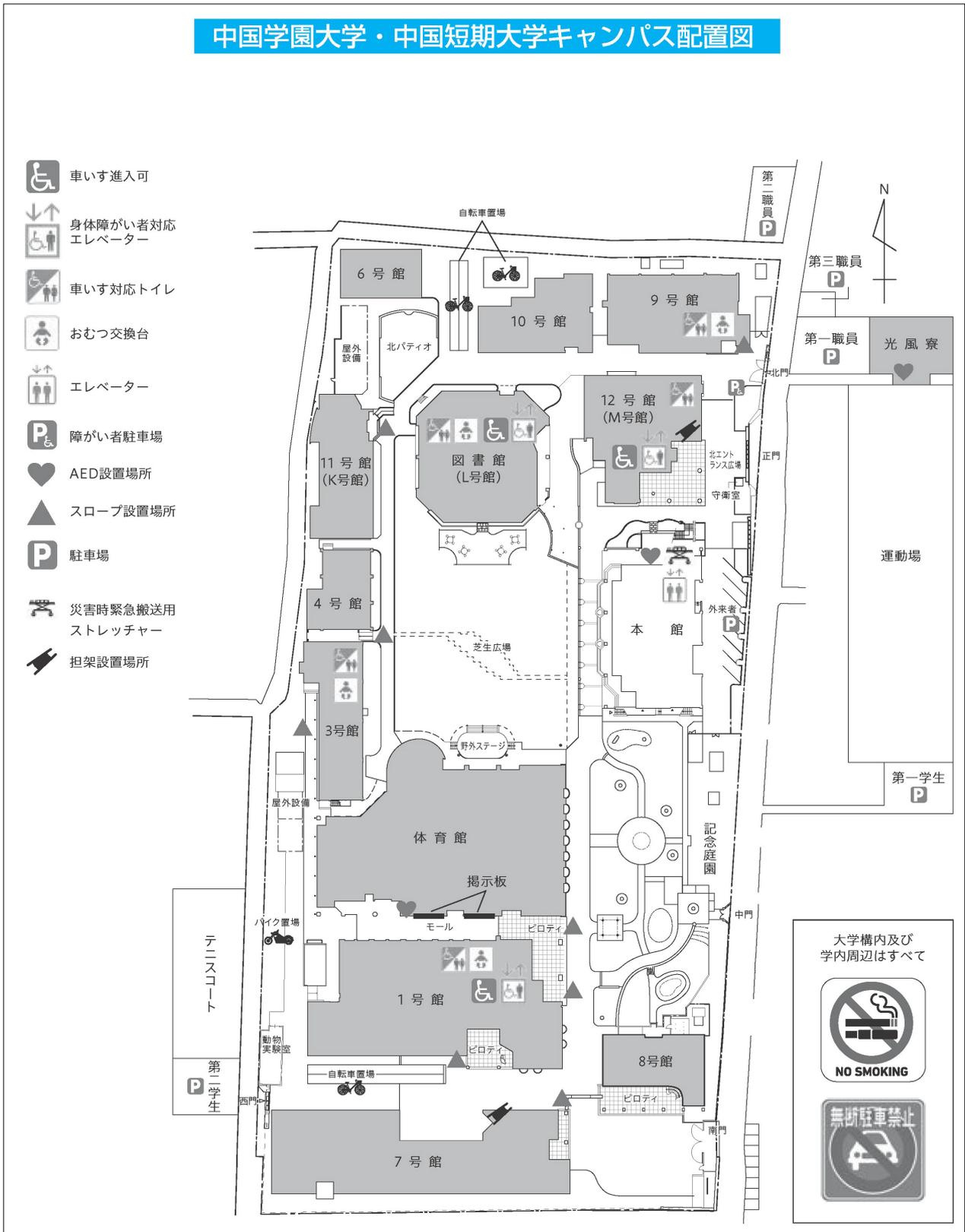
- 1日目も2日目も、学内の食堂は営業していません。
- 徒歩5分ほどで、24時間営業のスーパーマーケットやコンビニがあります。
- 徒歩10分ほどで、飲食店がいくつかあります。
- 飲食禁止のM301以外の教室で飲食できます。2日目は「総会」中に飲食できます。

■ 受付・会場について

- 受付は、正門から入って正面の12号館3階で行います。
- 受付では、大会参加費と合わせて、学会費の納入もできます。
- 受付時及び会場に入るときは、新型コロナウイルス感染症対策として、体温測定、手指消毒、マスクの確認等をさせていただきます。
- 各教室の入口には消毒薬とペーパーを配置しますので、随時ご利用下さい。
- キャンパス内及びキャンパス周辺はすべて禁煙です。
- クロークは設置しません。会員控室を設置しますので、そこに荷物等を置くことはできます。ただし、各人で管理をお願いします。
- 会場は、12号館1～4階です。

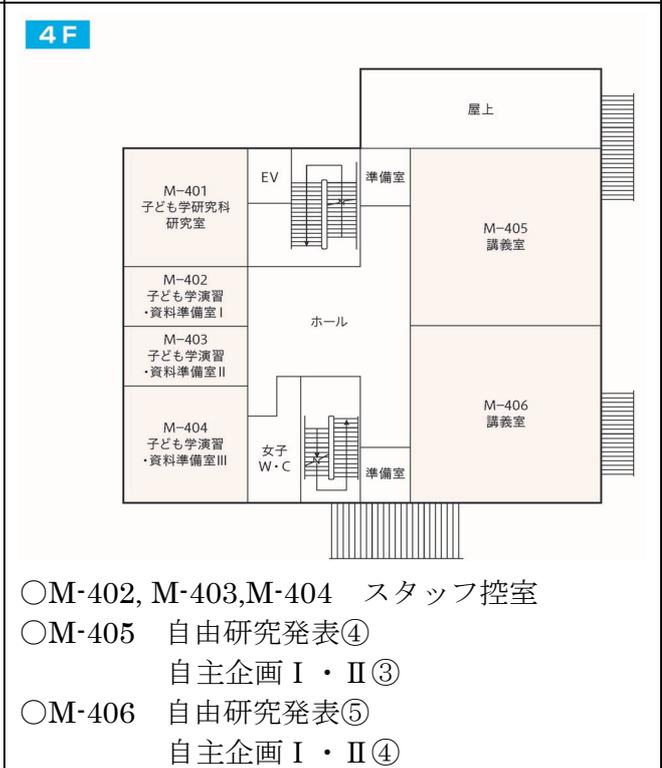
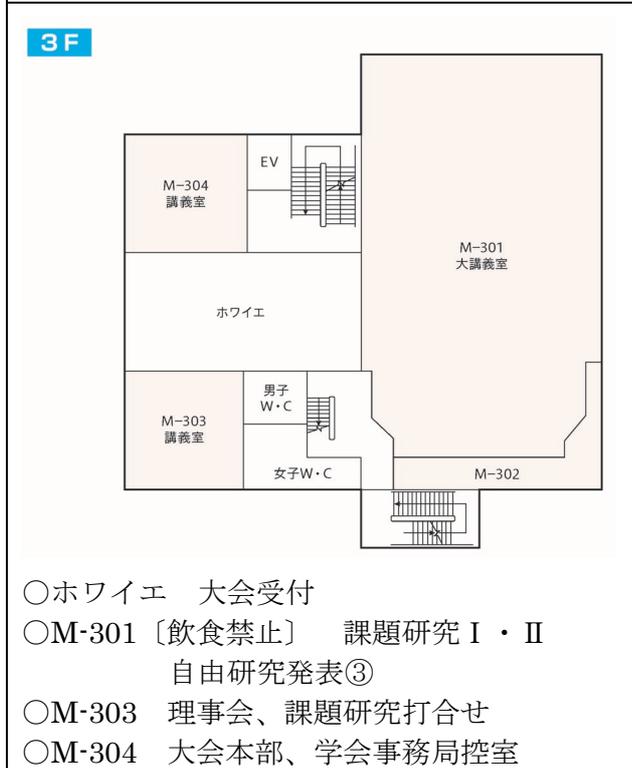
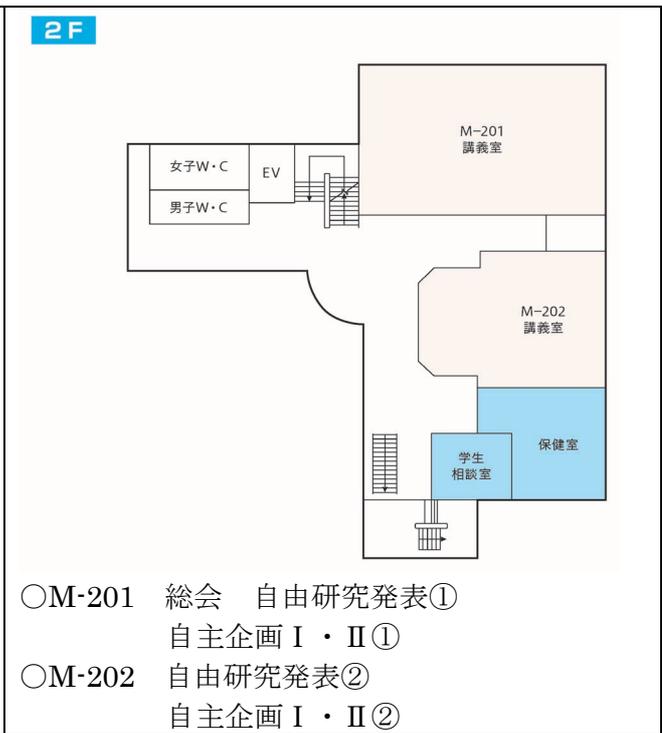
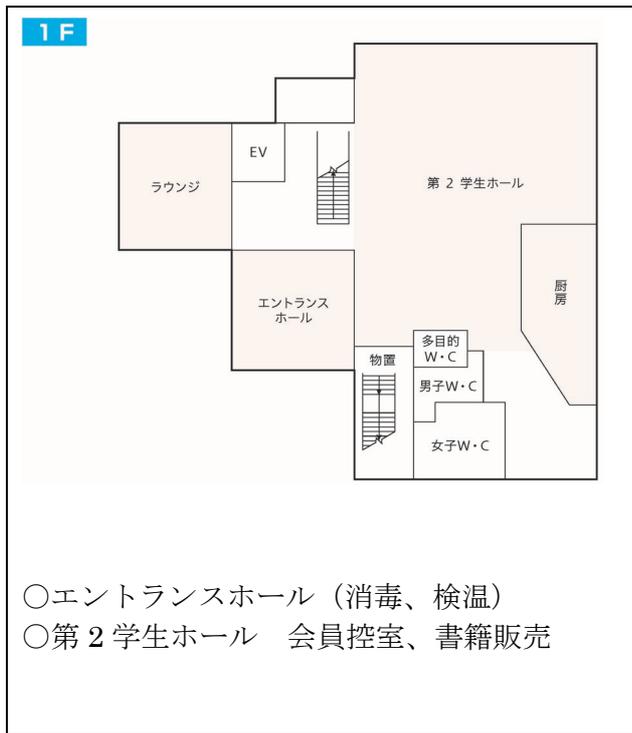
■会場図

中国学園大学・中国短期大学キャンパス配置図



○正門と12号館の位置をご確認下さい。

○会場は全て12号館1～4階です。受付は12号館3階です。



<問い合わせ先>
 □第12回大会の参加・発表等に関すること
 〒701-0197 岡山市北区庭瀬 83 番地 中国学園大学子ども学部 中田研究室気付
 第12回日本学童保育学会研究大会実行委員会 事務局長 中田周作 E-mail : nakada@cjc.ac.jp
 □学会・入会・会員資格等に関すること
 〒586-8511 大阪府河内長野市小山田町 1685 高野山大学文学部教育学科 松本研究室気付
 日本学童保育学会事務局 事務局長 松本歩子 E-mail : jimukyoku@gakudouhoikugakkai.com
 <学会HP>
<http://www.gakudouhoikugakkai.com/>